

<2019年度 ハローオリピズム事業>
オリンピック教室

実施報告書

北海道 士別市立多寄中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日：2019年6月24日（月）

■ク ラ ス：1年（5名）、2年（5名）、3年（6名）

■オリンピアン：小塚 崇彦 先生（スケート／フィギュアスケート）【出場オリンピック／バンクーバー大会】

■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介の後、オリンピックバリュー「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を意識して取り組んでほしいと伝えた後、準備体操を実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・2班毎の2チームに分かれて、大縄跳びを実施。



4. まとめ



・運動を通じて、オリンピックバリューを実践してくれた。最後まで諦めず、皆で協力し、ルールを理解しながら守り、どうしたらいいかを考えてくれた。これがオリンピックバリューであり、次の座学の時間で更に深掘していくと予告し、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・クーベルタンが提唱した3つの理想を説明し、映像を見せながら競技について解説。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



個人発問：運動の時間に感じたことをオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
 グループワーク発問：学校祭をより良いものにするためにオリンピックバリューをどのように活かせるか考えてみよう。
 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。（抜粋、順不同）
 「繰り返し練習する」「限られた時間で練習する」「失敗したとしてもやりきる」(エクセレンス)
 「お互いにアドバイスをし合う」「話し合い協力する」「仲間と一緒に練習する」(フレンドシップ)
 「教えてくれた人に感謝しながら演じる」「見てくれた人に感謝」「仲間や先生方に感謝」(リスペクト)

4. まとめ



・スケート靴と実際の氷を使用し、ステップやジャンプでリンクにつく跡を見せる。
 ・オリンピックバリューはアスリートだけに関係するものではなく、皆の日常生活にも深く関わっている。たくさんの仲間と切磋琢磨して、さまざまなことに挑戦してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真



■ 記念品贈呈



■ 修了証贈呈

